

トヨコ通信

2011年9月号

ホームページ <http://www.sasada-toyoko.jp/>
e-mail ssanbal@sasada-toyoko.jp

発行 : 日本共産党笹田トヨコ後援会
発行日 : 2011年 9月 1日 第112号
連絡先 : 大垣市室本町 5-8
日本共産党大垣市後援会
Tel 78-6865 Fax 73-8572

部内資料

9月議会はじまる

8月29日、議会運営委員会が開催され、平成23年度第3回大垣市議会定例会の提出予定議案が報告されました。主な議案は以下の通りです。

<補正予算>

- ・奥の細道むすびの地周辺整備関連事業費 1億4000万円
…公衆便所整備3か所、案内板整備、四季の路改修、大垣公園園路等改修
- ・地域防災計画改定支援等委託（債務負担行為）2000万円

防災・環境・補正予算を審議

- ・防災行政無線整備事業（債務負担行為） 2920万円
…難聴対策
- ・防災情報提供設備整備事業費 279万円
- ・児童扶養手当 2880万円
- ・グリーン電力計測メーター設置補助金 100万円
…太陽光発電設置増に伴い50件分追加
- ・LED照明機器導入補助金 1500万円
…個人・中小企業対象 10万から100万円の3割助成
- ・中心市街地リフレッシュサポート事業補助金
…空き店舗9軒分 516万円
- ・木造住宅等耐震対策支援事業費 2332万円
…耐震補強工事費を120万円から300万円に引き上げ、7割補助等

9月議会の日程

9月5日(月)	10:00	本会議・提案説明
9月12日(月)	10:00	本会議・一般質問
9月14日(水)	10:00	子育て支援日本一対策委員会
	19:00	市民病院に関する委員会
9月15日(木)	10:00	建設環境委員会
	19:00	経済産業委員会
9月16日(金)	10:00	文教厚生委員会
	19:00	企画総務委員会
9月20日(火)	10:00	本会議

<条例改正>

- ・大垣市災害弔慰金の支給等に関する条例の一部改正について
災害弔慰金の支給対象を遺族の兄弟姉妹まで拡大
- ・大垣市企業立地促進条例の一部改正について
工場等設置奨励金の交付期間の拡大、雇用促進奨励金の額の拡充を図る。横曽根工業団地の特例も。
- ・大垣市火葬場条例の一部改正について

<請願>

- ・国内農業に壊滅的打撃を与えるTPP交渉参加に反対する請願
請願者：西美濃農業協同組合

時水力発電所

農林課職員の案内で8月19日に上石津の時山にある水力発電所の見学を行いました。

発電所は大正時代に村営発電所として建設され、村の電灯を灯していたとのこと。その後、白石工業（藤原町）の所有となり、昭和30年代から50年頃まで発電していたようですが、今は廃業しています。

廃墟化した発電所の建物の中は機械類がいくつか設置されていましたが、もちろん今は使えるものではありません。この水力発電所は、上流の谷から取水して導水管で水を引き、その落差を利用して発電を行うもので、ダムをつくって行う水力発電とは違い、今ある自然を破壊するものではありません。発電規模は200kwともいわれ、導水管を整備すれば、現状でも発電ができるかもしれません。

今後のことは別として、私・笹田は、歴史的な遺産として、又これからのエネルギーを考える資料として、大垣市に白石工業から所有権移転を求めています。



←大きな藤の絡む変電設備（手前右）と、発電所（奥）

被災地の“がれき” 処理について



…全国で受入れ??大垣市受入れ可能量「9659トン」

8月8日号の週刊「アエラ」で、宮城・岩手の“がれき”を全国自治体で受け入れると、自治体の受け入れ可能量のリストまで掲載されました。大垣市は「9659トン」と他自治体と比べても突出した量です。稲わらの放射能汚染が問題となり岩手の松からも放射能が検出されるなど、放射性物質が広く東日本に飛散していることが明らかになりました。

心配した市民から、「大垣市は受け入れるのか?」と問い合わせがあり、8月10日環境衛生課で状況を聞きました。部長の話では、「5月に環境省から瓦礫の焼却可能量の調査があり、焼却能力を聞かれたので答えた。

『焼却する』と手を挙げたわけではなく、その時は稲わらの問題も出ておらず、焼却の前提は放射能汚染がないことが条件。環境省から基準も出されておらず、今の段階ではがれきの県外持ち出しは無理ではないか」というものでした。

放射能物質の拡散を防ぐため現地で処理を

その後、「岐阜市が受け入れる」と報道されており、がれき処理の対応は流動的です。8月27日、NHKの「週刊ニュース深読み」でこの問題を取り上げており、その中で東京大学アイソトープ総合センター長の児玉教授は「放射性物質の拡散を防ぐには、がれきは全国に分散させず、現地で処理するのが鉄則」という考えを出されていました。私も同感です。被災地は大変だけれども、現地で処理施設をつくり、そのための財源は国と東電が責任を持つべきだと思います。

特養の優先入所 について



「くすのき苑」へ優先入所を申請して半年も経つが何の連絡もない。優先入所の検討委員会は年に1回しか開催しないとのことだが、おかしいのではないかといい声がありました。特別養護老人ホームの「優先入所」とは、本人の要介護度や家族の状況によって必要度の高いケースは申し込み順ではなく「優先入所」ができる制度です。入所を決定するにあたり県がガイドラインを策



我が家の
百日紅

定し、ケアマネジャーの意見書で要介護状態や家族の状況などを点数化して、各施設の入所検討委員会で決定されます。

くすのき苑の「優先入所」の実績について聞くと、ここ数年「優先入所」は年に1~2件しかないということでした。しかし、だからといって検討委員会を年に1回しか開かず、申請を半年以上も放置しているのはいかなものか。

くすのき苑に対しては、「申請が出されたらその都度検討委員会で審査し、結果を申請者に返す」よう運用の改善を求めました。



災害時の対応を見学してきました

「地域防災計画」がつくられています、読んでもいざという時、どのような展開になるのか具体的なイメージを持つことができずにいました。8月28日、市内で防災訓練が行われ、青墓小学校で行われた「総合防災訓練」を見学しました。

8時、「地震発生」を想定して、青墓地区の住民は、一時避難場所に集合し、青墓小学校へ避難、8時半までには皆さん集合し、防災訓練が始まりました。現地災害対策本部設置、災害情報収集、被害状況収集、炊き出し、救援物資配布、ボランティアセンター設置など防災計画にある内容を次々と実施。当日参加された地域のみなさん、お疲れ様でした。

東日本大震災は、1000年に一度といわれるマグニチュード9の大地震でした。東海地震もここ30年の間に80数%の確率で起きると言われ、しかも、東海地震と東南海地震の複合型になるのではとされています。現在の大垣市の「地域防災計画」では、今回の東日本大震災級の地震や原発事故の想定はされておらず、見直しが求められるところです。「活断層の上に建設されている徳山ダムの決壊は大丈夫か」とか「福井の原発事故は大丈夫か」など心配の声が寄せられています。自然災害の発生は避けられませんが、それにとまなう原発事故などは人災です。原発は今回のように一旦事故になると放射能のコントロールができません。原発は廃止するしか災害を防ぐことができないのではないのでしょうか。

